

▲前列中央が寺永法専（写真提供：宝達志水町東間 慶念寺）
前列左は長男「聞烝」（現宝達志水町東間「慶念寺」第11世住職）
前列右は六男「智聞」（現かほく市大崎「専信寺」第29世住職）

『網走監獄の慈父 寺永法専』

寺永法専（てらながほうせん）は明治元年、若緑の長福寺の四男として生まれ、19歳で北海道に渡り、明治22年に網走に移って真宗大谷派永専寺を開きました。

その翌年、網走に監獄が設けられると、囚人たちを教えさす教誨（きょうかい）活動に熱心に取り組み、囚人たちから慈父と慕われました。

さらに、自身の寺に出所者の更生保護施設も作って社会復帰に心血を注いだ法専は、日陰の人々に目を向け続けた信念の人でした。

昭和7年、65歳で生涯を終えましたが、北海道の近代史にしっかりとその名を刻んでいます。



▲永専寺山門（網走市有形文化財）
網走監獄の旧正門。大正13年（1924）、寺永法専師の功労を称えて永専寺に払い下げられ、山門として移築されました。

市史編さんの聞き取り調査時に、かほく市出身で顕著な活躍をされた方がいることを情報提供して下さった皆様、本当にありがとうございました。

他にも、このような方をご存知であれば、編さん室までお知らせください。

新任 ごあいさつ

かほく市史編さん委員長 南 春 夫

前任の喜多委員長より委員長を引き継ぎました南です。よろしくお願ひ申し上げます。

「かほく市史編さんだより」も今回で第5号の発行となり、市史の作成が順調に進んでいることがうかがわれます。20年前に三町が合併しましたが、それ以前に三町において作成された町史には、各町の歴史が網羅されています。それらをもう一度まとめ上げ、貴重な財産として後世に伝えていくことが重要ではないかと考えます。

編さん委員会としましては、事業推進のため、専門委員の先生方の調査研究内容をふまえて、市史編さんの事業方針や刊行計画に関する事項について調査審議してまいります。市民の皆様のご理解とご協力をよろしくお願ひいたします。

編さん委員とは、各種団体や学識経験者の中から、市民の代表として市史編さん事業に関わっていただく方々です。よろしくお願ひします。

氏 名	所属団体・役職	氏 名	所属団体・役職
南 春夫	かほく市商工会	東四柳史明	金沢学院大学名誉教授
瀬戸 薫	かほく市文化財保護審議会	袖吉 正樹	かほく市文化財保護審議会
浅見 洋	西田幾多郎記念哲学館館長	星名 葉子	河北郡市退職校長会
西島 紀敏	かほく市町会区長会連合会	種本 博	かほく市農業委員会
新田美智代	かほく市女性協議会		(任期：令和5年10月1日～7年9月30日)

『これまでの調査から』

特産「かほっくり」栽培に頑張っています

かほっくりは、かほく市誕生後、農産物として最初に「かほく市特産品ブランド」に認証された地場産品で、甘くホクホクとした食感が特徴のさつまいもです。喜綿農園の喜綿和彦さんにお話を伺ったところ、大崎では宇ノ気町の頃に3軒が栽培を始め、昭和49年頃に園芸組合を立ち上げ、最大5軒で7ヘクタールほどの栽培面積があったようです。

干しいも、ペースト、チップスなどの加工品販売にも力を入れ道の駅で販売したり、市内の小学校2年生に苗植えや収穫体験の場を提供したりするなどの活動もしています。近年、高齢化による生産者の減少、人手不足、経費高騰等の課題はありますが、機械化を図り、スイカや大根の生産との組み合わせを工夫しながら、これからもブランド力アップに頑張っていきたいとの意気込みを話してくださいました。



▲ かほっくり生産者：喜綿 和彦氏



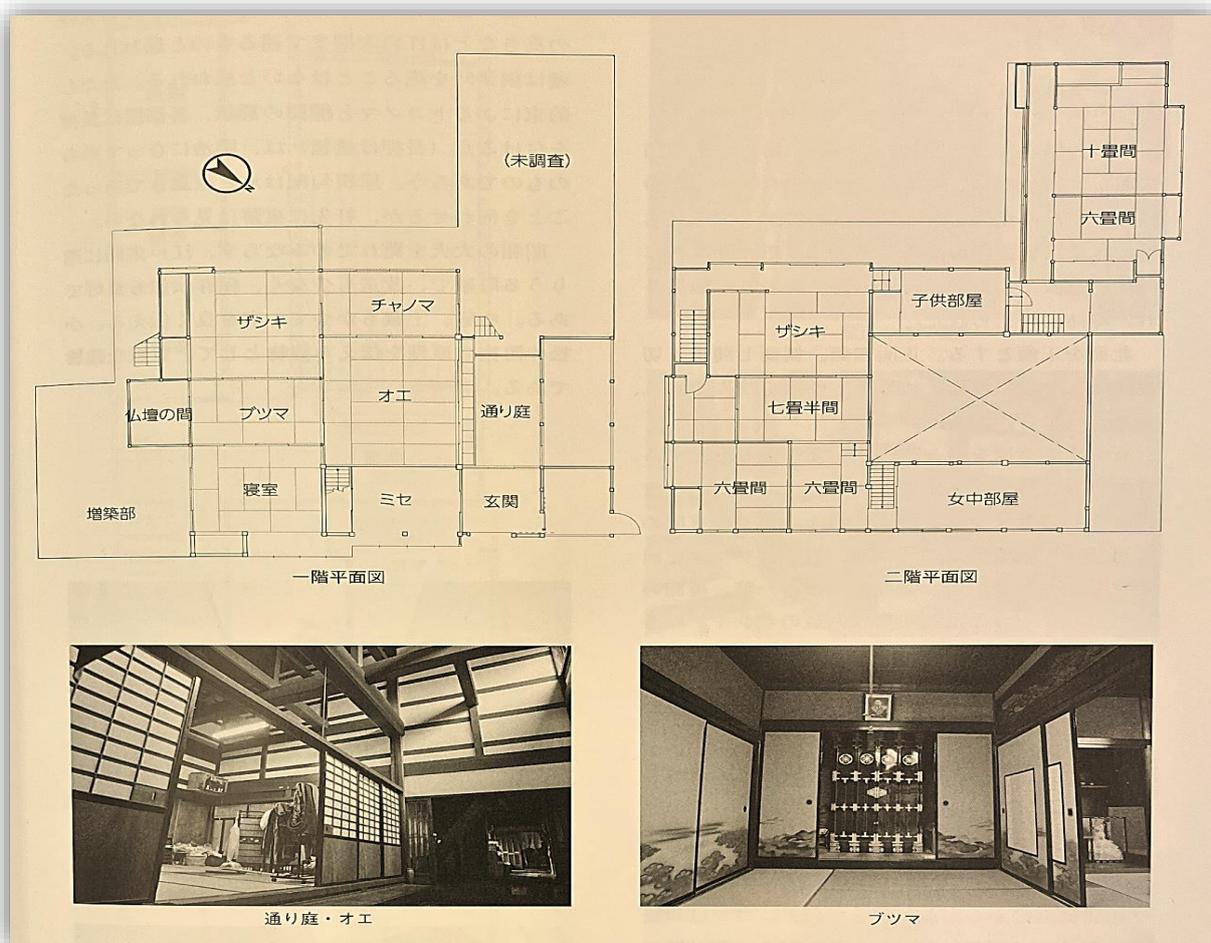
▲ かほっくり収穫風景

資料編「民俗」に掲載させていただける民家を探しています！

かほく市史では、令和9年度刊行予定の資料編「民俗」作成に向け、6年度から本格調査に入ります。「民俗」は、古くから民間に伝承してきた風俗・習慣などを聞き取り調査や史資料から取りまとめ、大きく8つの章に構成していきませんが、その一つに「造形のいとなみー建築と生活道具ー」という章が編さん予定です。

その章の建築の部分では、下の写真のような比較的古い家の写真や間取りと、その家の解説を掲載することで、当時の家の構造や生活様式を明らかにしたいと考えています。主に昭和30年代以前の町屋や農家、商家など可能な限り多く掲載する予定です。今後、掲載させていただけるお宅を探していきますので、何とぞ情報提供にご協力をよろしくお願いいたします。

▼『新修 小松市史 資料編 15 建築』より転載



古い文書や写真はありますか

かほく市史編さん室では、市民の皆様から次のような情報提供をお待ちしています。

- ◆自宅や土蔵の中に古い文書や写真がある。(何の文書か分からなくても結構です)
- ◆どこそこのお宅に古い文書や写真があると聞いたことがある。あるいはありそうだ。
- ◆地区の公民館やお寺、神社などに昔からの書類や写真がある。
- ◆この地区には、今は失われたけど昔こんな行事があった。

些細なものと思われるものでも構いませんので、ぜひご連絡ください。



連絡先(電話・FAX番号、メールアドレス)は最終ページをご覧ください。

「木津焼」

七塚小学校のプールの横に、現在学校園になっている場所があります。そこには江戸時代後期に窯跡があったことが知られており、九谷焼に近い陶器が作られていました。

粘土など全く無い砂地で、どうして焼物が作られたのでしょうか。この窯跡については、平成6年（1994）に七塚町教育委員会が発掘調査報告書を出しており、以下のような諸説があることを紹介しています。

- ・年代は文久年間（1861～1863）から明治4年（1871）までの間
- ・木津の富豪で文化人であった「室本家」の室屋喜右衛門が投資
- ・京都等から陶工を招いて陶窯を開き、日用雑器を生産
- ・陶土は、現かほく市の谷地区辺りの土を使用したのではないかと推定

江戸時代後期、木津村は能登と金沢の中継点であり、加賀藩の御蔵（年貢米を収納する蔵）が置かれるなど大いに潤い、酒造りや質屋などの商業が発展していました。

木津焼もそのような背景の中で生まれたものの量産までにはいたらず、8～10年ほどの短い期間に作られたとても珍しい焼物です。



木津焼「徳利」（室石家所蔵）
灰色地で上部に花卉、下部に根付の松が描かれており、いかにも浜地の木津で作陶されたことが伺われます。



木津焼「緑釉香炉」（辻家所蔵）
辻家では、今も大切にお仏壇で使用されています。

編さん室の歩み(活動記録)R5年11月～R6年1月まで

11～1月	寺院調査3回 11/22,12/20,12/25	11～12月	間取り調査2回 11/15,12/1
11～1月	古文書調査4回 11/17,11/24,12/15,1/9	11月13日	第2回考古部会
11月	絵馬調査(大海地区)2回 11/27,11/28	12月11日	第2回近世部会
		12月14日	第2回現代部会
		12月22日	イオンモールかほく間取り・写真撮影
		12月23日	第2回民俗部会

お問合せ・資料の提供はこちらまで

〒929-1215
かほく市高松ク4 2番地1
かほく市高松産業文化センター3階

かほく市史編さん室

TEL : (076) 281-3455
FAX : (076) 281-3521
E-mail : shishi@city.kahoku.lg.jp →

